

移動薬局車使い 地震想定し訓練

第一薬科大など

第一薬科大(福岡市南区)と福岡市、同市薬剤師会は8月30日、被災地で薬局の役割を果たす車両「モバイルファーマシー」を活用し、薬の受け渡しなどの訓練を行った。写真。新型コロナウイルス禍が続く中での地震発生を想定した。

車両はキャンピングカーを改良し、薬品保冷庫や調剤器具を装備。移動薬局と

して被災地に向かうことができる。第一薬科大に1台配備されている。

訓練には約10人が参加し、大学職員が患者役、市薬剤師会の会員が薬剤師役を務めた。新型コロナ感染の疑いがある人だけでなく、熱中症で発熱症状がある患者がいることも想定し、トランシーバーによる情報伝達や感染疑い患者の誘導などを確認した。

市薬剤師会の山野徹副会長は「コロナ禍という特殊な状況での対応は想像より

も難しかった。訓練を重ね、トラブルなく対応できるようにしたい」と話した。

(山本諒)

